水害版BCP作成の手引きの内容			1．浸水ハザードの確認	2．被害の想定			3．重要業務の選定				4．ボトルネックの特定	5．BCP発動基準・収束基準の決定	6．水害版BCPのとりまとめ
				（1）直接的な被害想定の確認	（2）間接的な被害想定の確認	（3）自社の防災備え現状の確認	（1）緊急時対応業務の抽出	（2）優先度の高い通常業務の抽出	（3）浸水対策・浸水対策設備の抽出	（4）重要業務の選定			
検討・記載する内容			自社および周辺道路の浸水深、浸水到達時間、浸水継続時間を確認	会社の建物の浸水（浸水深さや時間）などを確認	停電、断水、通信不能、道路浸水などの間接的な被害想定を確認	直接・間接的な被害想定に対し、防災備えの現状を確認	災害により発生する業務を抽出	被災の有無に関わらず、優先的に行うべき通常業務を抽出	事前・事後対策を行う上で、必要な浸水対策・浸水対策設備を抽出	緊急時対策業務・優先度の高い通常業務に対し、発災直後から2種間程度の間で、必要資材、人員をとりまとめ	現状の資材、人員等で「いまできること」と、「将来的に対応すべきこと」を仕分ける	自然災害発生に伴い、会社として通常業務から災害時対応に切り替える基準を決定	検討結果のとりまとめ
情報伝達技術	1	防災無線システム											
	2	メール等							●				
	3	電子看板							●				
	4	アプリ											
	5	ＦＭ放送											
	6	伝言サービス											
	7	ＦＡＸ											
浸水危険箇所の調査技術	8	重ねるハザードマップを活用した浸水危険箇所の把握	●	●	●								
	9	わがまちハザードマップを活用した浸水危険箇所の把握	●	●	●								
	10	大雨警報（浸水害）の危険度分布を活用した浸水危険箇所の把握	●	●	●								
	11	洪水警報の危険度分布を活用した浸水危険箇所の把握	●	●	●								
浸水防止技術	12	土のう							●				
	13	止水シート							●				
	14	パラペット							●				
	15	止水板							●				
	16	防水扉							●				
	17	防水シャッター							●				
	18	防水ドア							●				
点検・モニタリング技術	19	地盤状況調査											
	20	空洞化調査											
	21	地盤変位モニタリング											
	22	地下水位モニタリング											
	23	水位モニタリング											
	24	クラック計測・モニタリング											
修復技術	25	堤防の補強と復旧											
	26	弱点・被災箇所の補強、修復など											